

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年11月9日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101706		
法人名	有限会社 ドゥ・ライフ		
事業所名	グループホーム ゆう	ユニット名	東館
所在地	〒310-8043 茨城県水戸市元石川町2523		
自己評価作成日	平成28年4月25日	評価結果 市町村受理日	平成28年11月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870101706-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870101706-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年7月25日	評価機関 決 済 日	平成28年11月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・個々が生きることの喜び、自分であることの喜びを感じていただけるような支援を心かけています。当たり前の毎日が当たり前に送れるために出来る事、いつまでも自分らしくあるために、お手伝い出来ることを考えサービスの提供につなげています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は気軽に来訪し易い雰囲気から家族等の来訪が多く、隣接する他法人が運営する障害福祉サービス事業所より、就労支援として清掃に入っており、それぞれの利用者同士のコミュニケーションを図る機会となるとともに、互いにやりがいや張りのある生活へとつながっている。地域の蕎麦打ち会や盆踊りなどへの参加のほか、子ども神輿の休憩の場として事業所を提供するなど、地域とのつながりも大切にしている。管理者や職員は、利用者がいつまでも自分らしくあるために、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、きめ細やかなケアの提供に努めている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員は、理念カードを所持していて、いつでも確認できるようにしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関や事務室、各ユニット、面会室に掲示している。 職員は理念をネームの裏に携帯したり、月1回の職員会議の際にも確認し、共有しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域のそば会や、盆踊りへの参加をしている。毎年、石川囃保存会の山車が来訪したのしませてくれている。近所の方から野菜を頂いたりしている。	事業所は自治会には加入していないが、毎年地域の蕎麦打ち会や盆踊りに参加するほか、地域のはやし保存会が来訪し、笛や太鼓、踊りを披露して利用者を楽しませてくれている。 近隣住民から野菜のお裾分けを頂き、お返しに手作りケーキを持っていくなど、日常的に交流している。 隣接する他法人が運営する障害福祉サービス事業所より、就労支援として清掃に入っており、それぞれの利用者同士のコミュニケーションを図る機会となるとともに、互いにやりがいや張りのある生活へとつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・ボランティアの受け入れは行っている。介護教室などは開催していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議で出た意見などに対しては、その場で説明したり、次回までに説明できるようにしている。スタッフにも全体会議などで伝えている。報告書は閲覧できるように玄関に掲示している。	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、隣接する障害者福祉サービス事業所の施設長、他法人のグループホーム代表者、地域住民、管理者、職員で2ヶ月に1回開催し、議事録を作成している。 事業所からは行事や利用者の状況報告、事業所の取り組み、外部評価の結果報告などをし、参加者と意見交換を行っている。 家族等の意見を受けて、職員は戸外で喫煙をするようにしたほか、民生委員より「近所に独り暮らしの高齢者が多い」とのことから、徘徊時の対応場所として協力している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・介護相談員の受け入れや、高齢福祉課と協力し家族への支援も行っている。介護保険課とは個別に介護サービス計画書等の指導を受けるなどしている。	市担当者が毎回運営推進会議に出席しているほか、管理者は電話だけでなく、要介護更新申請やケアプラン作成の指導を仰ぐほか、身体拘束についての相談など、直接市窓口に出向いて情報交換をしている。 市担当者や地域包括支援センター職員に生活保護受給者の相談や成年後見人を立てる場合などの相談をして助言を得、連携を図りながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないケアを行うため、スタッフで話し合い、時には家族にも相談し何が出来るか考えている。夜間から明け方は、防犯の意味も含めて施錠している。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、職員は外部研修や年1回内部研修に参加し、身体拘束となる具体的な行為について理解しているとともに、研修に参加できなかった職員には、連絡ノートにて周知し、既読後はサインをすることとしている。 日中は玄関の施錠をせず見守り、身体拘束をしない介護に努めている。 現在は身体拘束の対象者はいないが、やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、同意書や経過観察記録等の書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・スタッフ間で話し合い、注意しあえるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要のある方には、関係者と話し合い、必要な制度を使えるよう支援している。自立支援事業を使っている方がいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に、しっかりと説明するようにしている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議、面会時に受けるようにしている。そういった意見等は、会議や連絡ノートを使って周知し、反映していけるようにしている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記して、契約時に家族等に説明するとともに、苦情相談受付窓口を掲示して、家族等が意見や苦情を言える機関を周知している。 利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは運営推進会議や面会時、介護計画更新時などに意見や要望を聴くよう努めているほか、玄関に苦情箱を設置している。 「馴染みの床屋に連れて行って欲しい」など、日頃からこまめに家族等から意見が出され、聴き取った情報は「苦情ノート」に記載して職員間で共有するとともに、対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・全体会議や、毎日の会議を通して意見の交換をするようにしている。	管理者は日頃から職員に話しかけてコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を出し易い環境づくりに努めているほか、職員会議や職員面接で意見や要望を聞く機会を設けている。 職員から出た意見を受けて、備品の購入や外出行事の実施、植栽など、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・出来る限り、そういった環境を作るようにしている。就業時間や家族の病気での早退等働きやすい環境にあると思う。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・社内、社外ともに積研修を実施している。会社からの要望もあれば、個人で行きたい研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・他施設との研修会やカラオケ教室などに参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・これまでの生活歴を、本人、家族から聞き、安心に近づく環境を提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の要望、不安を理解し、共にケアを行っていく関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談に応じて、他サービスの説明をさせて頂いたり、必要に応じて、連絡調整を行い家族につなげている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・出来ることは自分でやっていただき、時には、役割なども持って生活してもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族と蜜に、連絡をとり、情報交換しながら行っている。安心・安全に外出等が実施出来るよう連携している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族の方にも協力してもらい、昔ながらの友人にも遊びに来てもらえるようにしている。知人宅への訪問や馴染みの床屋等に行けるように支援している。	職員はライフヒストリー表や申し送りノートのほか、利用者からは日々の会話から、家族等からは来訪時などに話を聴き、利用者の馴染みの人や場所を把握するように努めている。 友人や知人等が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるよう配慮している。 利用者が入居前から利用していた理美容室や店での買い物、自宅への外出や外泊、外食、墓参りなどに家族等の協力を得ながら支援し、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・無理に引き合わせる事はせず、それぞれが気に入った場所、時にコミュニケーションを取れるよ支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・必要に応じて行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・家族や主治医を交え、希望や意向に沿った生活が出来るよう検討し実行している。	管理者と職員は、利用者の表情や仕草、態度のほか、ライフヒストリー表や個人記録から一人ひとりの思いや希望の把握に努めるとともに、月1回の全体ミーティングやユニットミーティング、連絡ノートなどで周知し、共有している。 意思の表出が困難な利用者の場合は、家族等の来訪時に話を聴いたり、表情や仕草から思いや意向の把握に努め、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ライフヒストリーの記入や家族から聞くなどして情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・それぞれの生活リズム、心身の状況を見て対処している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族や本人の希望や意向を、月1回の会議等を利用して、検討している。状況が変化した時にも	介護計画は利用者や家族等の意見や要望ほか、医師や看護師、管理者、職員で話し合っって計画作成担当者が作成し、面会時や郵送にて家族等に同意を得ている。 モニタリングと短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に設定し、基本的に3ヶ月毎に計画の見直しをして家族等に確認を得ている。 利用者の状態等に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・1日の流れに沿って、記録できるようにしてあり、申し送りや、連絡ノートを使うことで情報を漏れなく共用出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・外泊や床屋などへの支援をしている。家族の方の病院受診への対応をしたこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・シルバー人材やボランティアによる作業療法などを活用し、楽しみながら活動できる場を提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・支援している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なおことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、通院は基本的に職員が対応している。 週1回の協力医療機関の医師による訪問診療や月に1回から2回の訪問歯科診療が受診でき、受診結果は家族等に電話や面会時に報告して申し送りノートや個別の受診報告ノートに記載し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・平成26年10月より看護師を配置し、今まで以上に医療面での充実が見られている。病院に行かなくても、点滴を受けられる等利用者様にも良い環境と言える。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時、病院や家族と連携をとり、早期退院に向けられるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・本人や家族の考えに一番近く、本人にとって良い結果になれるよう、関係者と話し合い、支援している。	「利用者の重度化及び看取りの場合における対応に係る指針」を作成し、入居時に家族等に説明して書面にて同意を得ている。 看取り介護に関する職員の対応マニュアルは個別に作成し、状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっているが、現在は対象者がいない。 職員は外部研修や年1回の内部研修を受講し、共通認識のもと適切な対応を心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・定期的に救急法を受講し、有事に対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防を入れた訓練をしている。隣の事業所とも一緒に訓練を行うことで、協力体制を強化している。	消防署や消防設備点検業者立ち会いのもと、夜間想定を含む避難訓練を年2回、隣接する障害福祉サービス事業所や地域住民の協力を得ながら実施し、実施記録を作成しているが、職員からの気付きや反省点を記録するまでには至っていない。 他法人のグループホームとは、緊急避難先として協力関係ができています。 災害に備えて米や水、食料品、懐中電灯、おむつ類、毛布などを担当職員が定期的にチェックしながら備蓄している。	訓練後に職員で話し合った課題も記録に残し、次回につなげることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人一人に合った対応を心がけ接するようにしている。	契約時に家族等に個人情報に関する説明をして同意を得、管理者や職員は常に利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。 プライバシー保護に関する勉強会を実施し、職員は利用者の人格の尊重について確認している。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者に選んで頂く場面を作っている。上手に表現できない方は、表情や仕草等から読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者、個々のペースで過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・これまでの好み等を継続していけるような支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・好みや能力に合わせ、献立や配膳を変えている。現在は一緒に作る事は難しい状況であるが下膳など出来ることをやっていただいている。	献立は利用者の希望や苦手な物を踏まえ、代替え食も用意して職員が作成するとともに、年1回は保健センターへ出向いて指導を受けている。 近隣住民からのお裾分けや、自家菜園で採れた野菜も食材に取り入れながら調理している。 利用者は各自で湯呑みや茶碗を持ち込み、能力に応じて野菜の皮むきやテーブル拭き、盛り付けなどの役割を担っている。 正月や雛祭りなどに行事食を提供したり、誕生会にはケーキや鉄火巻きなど、利用者の希望の物を提供し、食事が楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一緒に食事を摂りながら、食事量、水分量をチェックし見守り、必要に応じて、介助をしている。色々な種類の飲み物を提供することで、水分量を増やしている。定期的に栄養士にも助言を頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・さまざまな状況に合わせて、声かけをし場合によっては、介助を行っている。月2回歯科医に指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・利用者個々に合わせ誘導をしている。	職員は排泄チェック表や個人記録を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の仕草やサインから察知して声かけ誘導し、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。 おむつからリハビリパンツ対応に移行したり、夜間リハビリパンツ対応だったが布パンツに移行した利用者がある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分量を増やす等の他、主治医と連携し定期的に排便が出るようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・ユニット別にお湯を沸かし、交互ではあるが毎日入浴出来るようにしている。	入浴は基本的に1日おきとしているが、利用者の希望でいつでも入れる体制となっている。 入浴を拒む利用者には強要はせず、職員や時間帯を変えたり、清拭や足浴などで対応するなど、工夫をしている。 柚子湯や菖蒲湯などを取り入れ、季節感を出したり入浴が楽しみとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々のペースに合わせ、昼寝の時間をもうけたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員全員が、服薬について分かるように前日に用意し、服薬する時にもう一度確認してから出している。 薬の変更記録や処方箋は目の届くところに保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・出来なくても、言葉での指示をもらったり、見ていてもらうことで活力が出るような場面づくりをしている。出来る事は安全に行えるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・重度化してきて以前よりは外出が難しくなっているが、水族館に行ったり、車椅子で買物に出かけたり支援している。外泊時等は、家族と連絡を取り合い支援している。	日頃から近隣住民と挨拶を交したり、職員が同行して買い物に行っている。 年間行事計画を立てて、家族等の協力を得ながら車いすの利用者も一緒に、牛久大仏など普段行けない場所に出かけたり、個別に対応する場合もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人管理だったり、施設で管理したり能力に合わせ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は居間にあり使えるようにしている。手紙も希望があったときには支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・それぞれが好きな場所で過ごせるよう空間づくりをしている。食材や花などから、季節感を感じられるようにしている。	玄関には季節の花を飾ったり、職員の紹介写真や資格者証を掲示して、家族等に周知している。 廊下の壁面には煩雑に掲示物を貼ったりはせず、家庭的な雰囲気となっている。 居間兼食堂は天井が高く吹き抜けとなっており、開放的で明るい環境になっているほか、1人になりたい時に利用できる部屋があったり、ソファを配置してリラックスできるような場を設けている。 トイレには手摺を設置するとともに、浴室とつながっていることは、利用者や職員の安心にもつながっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・談話室や廊下、テラス等に座れるスペースを作り、落ち着いたり、一人で過ごせる雰囲気を作っている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・出来るだけ今まで使っていた物を持ってきて頂き、なじみのある空間を作れるよう、家族にも協力していただいている。	居室にはエアコンやカーテン、クローゼットが備え付けられている。 管理者は使い慣れた物品を持参して貰えるよう説明しており、利用者は寝具類や衣装ケース、テレビ、筆筒、目覚まし時計、家族の写真、仏壇、手作り作品、ぬいぐるみ、本、ドレッサーなどを持ち込んで、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・当たり前が目印ではなく、なにが分かりやすいか色々と当てはめ、考え工夫している。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームゆう

作成日 平成28年11月10日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練後に職員同士の反省や話し合った事を記録に残す。	反省や話し合った事を記録し、次に生かせるようにする。	訓練後に消防隊員や防災会社の助言も含め、職員間で反省会を実施する。 また、記録を皆が閲覧できるようにする。	10月の訓練時に実施済み。
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。